

# Genesis 創世記

## 万物の創造

1 初めに、創造主が天と地とを創造された。2 地球とは言っても、まだ形が無く、混沌としており、真暗闇で、液状であり、創造主の聖霊は、あたかも雌鳥がその翼を広げてひなをはぐくんでいるかのように、その上を覆っていた。3 創造主が一声、「光は、出て来い」と仰せられると、光が出て来た。4 創造主はその光をご覧になって、満足された。そして創造主は、この光と闇を分けられた。5 創造主はこの光のある時を昼と名付け、闇の時を夜と名付けられた。こうして夕があり、朝があった。第一日。

6 それから創造主は、「大空が、地球とほかの天体の間に出て来い。そして、地球とほかの天体を分けてしまえ」と仰せられた。7 こうして創造主は、大空を造られ、大空の下にある液状の地球と、大空の上にある液状の天体とを分けられた。8 創造主は、その大空を天と名付けられた。こうして夕があり、朝があった。第二日。

9 創造主が液状の地球に向って、「水と土は分れよ」と仰せられると、その通りになった。10 創造主は、乾いた所を地と名付け、水の所を海と名付けられた。創造主はそれをご覧になって、満足された。11 創造主が、「地には種類ごとに植物が生えよ」と仰せられると、その通りになった。12 それで、地には種類ごとに植物が生えてきた。創造主はそれをご覧になって、満足された。13 こうして夕があり、朝があった。第三日。

14 それから創造主は、「光り輝くものが、天の大空にあって、昼と夜を区別せよ。日は季節

や年の役に立て。15 そして、天の大空で光り輝き、地球上のものを照らすよになれ」と仰せられた。すると、その通りになった。16 こうして創造主は、光り輝くものを二つ造られた。大きい方は太陽で昼に、小さい方は月で夜に輝いた。また星も造られた。17 創造主は、これらのものを天の大空に置かれ、地球上を照らさせ、18 また、昼と夜のために役立たせ、光と闇を分けられた。創造主はそれをご覧になって、満足された。19 こうして夕があり、朝があった。第四日。

20 それから創造主は、「水の中には、魚や水中生物が一杯になれ。また、地上には、鳥が大空を飛ぶよになれ」と仰せられた。21 創造主は、海水生物や、淡水生物や、鳥類を、その種類ごとに創造された。創造主はそれをご覧になって、満足された。22 創造主はまた、これらのものを祝福して、こう仰せられた。「生め。増えていけ。海や水に一杯になれ。また、鳥も地に増えていけ。」23 こうして夕があり、朝があった。第五日。

24 それから創造主は、「地上には、その種類ごとに、生き物、家畜、爬虫類、野獣が出て来い」と仰せられた。すると、その通りになった。25 創造主は、その種類ごとに、野獣、家畜、爬虫類を造られた。創造主はそれをご覧になって、満足された。26 それから創造主は、「三位一体の創造主であるわたしに似た者として、人を造ろう。そして彼らに、水中、空中、地上のすべての生き物を支配させよう」と仰せられた。27 創造主は、このように人をご自分に似せて、理性と徳をわきまえる不滅の霊を持つ者として創造された。また、男と女として造られた。28 創造主はまた彼らを祝福し、このように仰せられた。「生め。増えていけ。地上に一杯になれ。そして地上を征服せよ。水中、空中、地上のすべての生き物を支配せよ。」29 それから創造主は、こう仰せられた。「さあ、わたしは地上のすべての植物をあなたがたに与えた。それがあなたがたの食物となる。30 また、地上の動物、空の鳥など、すべての生き物のために、食物と

して植物を与える。」すると、その通りになった。<sup>31</sup>このようにして、創造主は、お造りになったすべてのものをご覧になった。それは、すばらしいものであった。こうして夕があり、朝があった。第六日。

**2** <sup>1</sup>こうして、すべてのものが完成した。<sup>2</sup>それで、創造主は第七日に、創造の御業の完成を宣言された。そして、創造の御業を終えて、休まれた。<sup>3</sup>創造主は、こうして天地創造になぞらえて、七日目を祝福され、聖別された。それは、創造主が創造の御業をすべて終えて、休まれたからである。

### 人間の創造についての詳しい叙述

<sup>4</sup>これは、すべてのものが創造された時のさらに詳しい出来事である。主である創造主がすべてのものを造られた時、<sup>5</sup>最初、地球上には、一本の植物も無かった。それは、主である創造主が地の上に雨を降らせなかったし、土地を耕す人もまだ造られていなかったからである。<sup>6</sup>しかし、水が湧き出て、土地の全面を潤していた。<sup>7</sup>すると、主である創造主は、土のちりで人を形造り、その中に霊を入れられた。そこで、人は生きた人格となった。<sup>8</sup>主である創造主は、エデンに園を設け、それを創造主とのすばらしい交わりの場として、そこに主が造られた人を住まわせられた。<sup>9</sup>主である創造主は、その土地に、いろいろな美しい木、魅力的な木が生えるようにされた。園の真中には、創造主ご自身を表す、命の木と善悪を知る木が生えていた。<sup>10</sup>一本の川が、この園を潤すために創造主のおられるエデンから出ていて、そこから四本の川に分れていた。<sup>11</sup>第一の川はピションと言い、ハビラの全地域を蛇行していた。そこには金があった。<sup>12</sup>その金は良質で、またすばらしい宝石もあった。<sup>13</sup>第二の川はギホンと言い、エチオピアの全地域を蛇行していた。<sup>14</sup>第三の川はヒデケルと言い、アッシリヤの東を流れていた。第四の川はユーフラテス川である。

<sup>15</sup>主である創造主は、人をエデンの園に住ませ、そこで働かせられた。<sup>16</sup>主である創造主

は、人にこう仰せられた。「園にある木はどれでも、その実を食べてよしい。<sup>17</sup>しかし、善悪を知る木からは取って食べてはいけない。それを取って食べると、善悪について正しい判断が下せないようになるから、必ず死ぬ。」

<sup>18</sup>それから、主である創造主はこう仰せられた。「人が独身でいるのはよくない。わたしが配偶者を造ってあげよう。」<sup>19</sup>主である創造主が、土からあらゆる動物と、あらゆる空の鳥を造られた時、主である創造主は、どんな名前を付けるかと、それらを人の所に連れて来られた。人はそれぞれの生き物を観察しては、それぞれにふさわしい名前を付けた。そして、それがそのままその名前となった。<sup>20</sup>こうして、人はあらゆる家畜、空の鳥、動物にその名前を付けるため、それを観察したが、自分の配偶者となるべきものを見付けることはできなかった。<sup>21</sup>そこで主である創造主は、彼を深い眠りに誘い、彼の意識外のところで、彼の脇から肋骨を一本取り出し、その後を元通りにして、<sup>22</sup>その一本の肋骨をもとに彼の配偶者である女を造り、彼女を彼の所に連れて来られた。<sup>23</sup>すると、彼は言った。

「これこそ私の半身だ。まさに私の配偶者だ。

彼女を妻と名付けよう。

私から取って造られたのだから。」

<sup>24</sup>そういうわけで、人はその父母を離れ、妻と結ばれ、二人は一体となるのである。<sup>25</sup>その時、彼らは二人とも裸であったが、別に恥しいとは思わなかった。罪を持っていなかったからである。

### 悪魔の誘惑

**3** <sup>1</sup>さて、主である創造主が造られた動物の中で、蛇が最も賢かった。蛇に身をやつした悪魔は、女の所に来てこう言った。「創造主はあなたがたに、園の中にある木からは、どれも食べてはいけないと、本当に言われたのですか。」<sup>2</sup>女は蛇に答えた。「いいえ、園にある木の実は食べても構いません。」<sup>3</sup>ただ園の真中にある善悪を知る木の实については、『それを食べてはいけない。それに触ってもいけな

い。その禁を犯せば、あるいは死ぬかもしれない」と、創造主は仰せられました。」<sup>4</sup>すると蛇に身をやつした悪魔は言った。「死ぬなんてことはありませんよ。<sup>5</sup>それを食べたら、今まで見えなかったものが見えるようになりますし、あなたがたが創造主のようになって、善悪を知ることができるようになることを、創造主はご存じなんですよ。」<sup>6</sup>そこで女を見ると、その木は実に魅力的で美しかった。そのため、女はその実を自分で取って食べ、一緒にいた夫にも与えたので、夫も食べてしまった。<sup>7</sup>確かに彼らは今まで見えなかったものが見えるようになった。しかし、それは自分たちが裸であることが分っただけであった。そこで、彼らは、恥しさの余り、いちじくの葉をつなぎ合せて、腰の周りを覆い隠した。

<sup>8</sup>夕方になり、彼らはその園の中で主である創造主の御声を聞いた。そこで彼らは、主である創造主の御前から逃げ出して、園の木の陰に隠れてしまった。<sup>9</sup>主である創造主は、男であるアダムに呼び掛けて、こう仰せられた。「あなたは今、正しいあり方をしているか。」<sup>10</sup>彼はそれを聞くと、「私はあなたの御声を園の中で聞きました。しかし、罪を犯したため恥しく、またあなたがこわいので、隠れてしまいました」と答えた。<sup>11</sup>すると、こう仰せられた。「あなたが裸なのを、だれが教えたのか。食べてはいけないと命じておいた木から取って食べたのだね。」<sup>12</sup>アダムは言訳をして、こう言った。「あなたが私と一緒にしてくださったこの女が、取ってくれたので、私は食べました。」<sup>13</sup>そこで、主である創造主は、今度は女に向かって仰せられた。「なんとことをしたのか。」女もまた言訳をして、こう言った。「蛇が悪いのです。私を惑わしたので食べました。」

<sup>14</sup>主である創造主は蛇に向かって仰せられた。「お前は、こんな事をしたので、あらゆる家畜、あらゆる動物の中で、最も呪われる。お前は、一生、腹ばいになって歩き、ちりを食べるようになる。

<sup>15</sup>これから、わたしは、お前と女を敵対関係にする。子孫同士も同様だ。

女の子孫から出る一人の人が、お前に決定的な致命傷を与え、お前は彼を傷つけても、決定的なものではない。」

<sup>16</sup>それから、女に向かって仰せられた。

「わたしは、あなたに産みの痛みを与え、あなたは大いに苦しんで子を産むようになる。それでもあなたは夫を慕い、夫はあなたを支配することになる。」

<sup>17</sup>また、アダムに向かって仰せられた。

「あなたは、わたしが食べてはいけないと言っておいたのに、妻に聞き従い、その木から取って食べたので、土地はあなたのために呪われ、あなたは一生涯、労働の苦しみを味わうようになる。

<sup>18</sup>土地には雑草が生え、

野草を食べなければならなくなる。

<sup>19</sup>あなたは、一生涯あくせく働いて、食物を得、ついに死ななければならない。あなたは土のちりから造られたから、死ねば、そのちりに帰る。」

<sup>20</sup>こうして、アダムは、その妻の名をエバと呼んだ。それは、彼女が全人類の産みの母だからである。<sup>21</sup>主である創造主は、アダムとその妻のために、動物から取った皮で服を作り、彼らに着せてくださった。

<sup>22</sup>主である創造主は、こう仰せられた。「人は不十分ながらも善悪を知ようになった。今度は命の木にも手を伸し、命の木からその実を取って食べることがないように。」<sup>23</sup>そこで、主である創造主は、アダムたちをエデンの園から追い出して、創造主との交わりを断たれた。そのため、アダムは土地を耕し、自分で働くことを始めた。<sup>24</sup>こうして、創造主は、アダムたちを追放して、命の木へ近付くことがないように、天使にエデンの園への入口を監視させ、彼らを創造主との交わりから断絶させられた。

## カインとアベル

4<sup>1</sup> アダムはその妻と夫婦生活をし、エバは妊娠して、カインを産んだ。彼女は、喜びと感謝にあふれ、「私は、主によって一人の男の子が与えられました」と言った。<sup>2</sup> エバはその後、弟のアベルを産んだ。アベルは羊飼となり、カインは農夫となった。<sup>3</sup> しばらくたってから、カインは礼拝のため、彼の作っていた作物を持って来て、ささげ物とした。<sup>4</sup> アベルもまた、礼拝のために、ささげ物を持って来た。それは羊の初子であり、それも最良の物を自分自身で持って来た。すると、主はアベルとそのささげ物は受け入れてくださったが、<sup>5</sup> カインとそのささげ物は受け入れてくださらなかった。そこで、カインは非常に怒り、創造主から顔を背けた。<sup>6</sup> すると、主はカインにこう仰せられた。「どうして怒ったり、顔を背けたりするのか。<sup>7</sup> もしも正しいことをしているのなら、受け入れられるはずだ。そうでなければ、罪があなたを滅ぼそうとして待ち伏せしている。それに打ち勝つべきではないのか。」

<sup>8</sup> しかし、カインは弟アベルに、「野原へ行ってみよう」と誘い出し、そこで、カインはアベルに襲い掛り、殺してしまった。<sup>9</sup> 主はカインに、「弟はどうした」と聞かれた。カインは、「知りません。私は弟の番人ではありません」と答えた。<sup>10</sup> すると、主はこう仰せられた。「なんということをしたのだ。弟の血が大地からわたしを呼んでいる。<sup>11</sup> もうお前はここには住むことができない。弟の血で汚されてしまった。<sup>12</sup> いくら労しても何も得られない。さあ、ここから出て行くがよい。」<sup>13</sup> カインは主に申し上げた。「私の罰は大き過ぎて、担いきれません。<sup>14</sup> 創造主からは追放され、この土地からは出て行かなければなりません。見知らぬ所で私はきっと殺されるに違いありません。」<sup>15</sup> 主は彼にこう仰せられた。「お前を殺させたりはしない。もしも殺す者があれば、七倍の罰を与えよう。」こうして主は、カインに一つの印をお与えになり、彼が殺されることのないようにされた。<sup>16</sup> カ

インは主のみもとから離れ、エデンの東、ノデの地に移り住んだ。

<sup>17</sup> カインは妻と夫婦生活をし、彼らにエノクが生まれた。カインは町を建てていたので、子供の名前にちなんで、その町をエノクとした。<sup>18</sup> エノクにはイラデが生まれ、イラデにはメフヤエルが生まれ、メフヤエルにはメトシャエルが生まれ、メトシャエルにはレメクが生まれた。<sup>19</sup> レメクは二人妻を持った。一人の名前はアダと言ひ、もう一人の名前はツィラと言った。<sup>20</sup> アダはヤバルを産んだ。ヤバルは天幕に住んで、牧畜の元祖となった。<sup>21</sup> 弟の名前はコバルと言ひ、立琴や笛を奏する最初の音楽家になった。<sup>22</sup> ツィラもトバル・カインを産んだ。彼は青銅や鉄の道具を作る鍛冶屋になった。トバル・カインの妹はナアマと言った。

<sup>23</sup> レメクは二人の妻に言った。

「アダとツィラは、よく聞け。

おれの言うことをよく聞くのだ。

おれは傷を受ければ、

それに仕返しをしてやる。

一人の若者を殺してやった。

<sup>24</sup> カインを殺す者は七倍の罰を受けるが、

おれは七十七倍の仕返しをしてやる。」

<sup>25</sup> アダムは夫婦生活をし、男の子が生まれ、その子をセツと名付けた。そして、「カインがアベルを殺したので、創造主はアベルの代りにまた一人の子供を下さった」と言った。<sup>26</sup> セツにも男の子が生まれ、その子をエノシュと名付けた。その時、人々は主を礼拝し始めた。

## アダムの子孫

5<sup>1</sup> アダムの子孫は、次の通りである。創造主がアダムを創造された時、ご自分に似せて造られ、<sup>2</sup> 男と女として造られた。彼らが創造された時、創造主は彼らを祝福して、彼にアダムという名前を付けられた。<sup>3</sup> アダムが百三十歳になった時、彼に似た子供が生まれ、その子をセツと名付けた。<sup>4</sup> アダムにセツが生まれてから、彼は八百年生きて、彼には、さらに男の子や女の子が生まれた。<sup>5</sup> アダムは九百三十

歳まで生き、そして死んだ。

<sup>6</sup>セツが百五歳になった時、エノシュが生まれた。<sup>7</sup>セツにエノシュが生まれてから、彼は八百七年生きて、彼には、さらに男の子や女の子が生まれた。<sup>8</sup>セツは九百十二歳まで生き、そして死んだ。

<sup>9</sup>エノシュが九十歳になった時、ケナンが生まれた。<sup>10</sup>エノシュにケナンが生まれてから、彼は八百十五年生きて、彼には、さらに男の子や女の子が生まれた。<sup>11</sup>エノシュは九百五歳まで生き、そして死んだ。

<sup>12</sup>ケナンが七十歳になった時、マハラルエルが生まれた。<sup>13</sup>ケナンにマハラルエルが生まれてから、彼は八百四十年生きて、彼には、さらに男の子や女の子が生まれた。<sup>14</sup>ケナンは九百十歳まで生き、そして死んだ。

<sup>15</sup>マハラルエルが六十五歳になった時、エレデが生まれた。<sup>16</sup>マハラルエルにエレデが生まれてから、彼は八百三十年生きて、彼には、さらに男の子や女の子が生まれた。<sup>17</sup>マハラルエルは八百九十五歳まで生き、そして死んだ。

<sup>18</sup>エレデが百六十二歳になった時、エノクが生まれた。<sup>19</sup>エレデにエノクが生まれてから、彼は八百年生きて、彼には、さらに男の子や女の子が生まれた。<sup>20</sup>エレデは九百六十二歳まで生き、そして死んだ。

<sup>21</sup>エノクが六十五歳になった時、メトシエラが生まれた。<sup>22</sup>エノクにメトシエラが生まれてから、エノクは三百年の間、創造主と共に生きる信仰深い生活をし、彼には、さらに男の子や女の子が生まれた。<sup>23</sup>エノクは三百六十五歳まで生き、<sup>24</sup>創造主と共に生きる信仰深い生活をし、創造主によって取り去られ、地上から姿を消した。

<sup>25</sup>メトシエラが百八十七歳になった時、レメクが生まれた。<sup>26</sup>メトシエラにレメクが生まれてから、メトシエラは七百八十二年生きて、彼には、さらに男の子や女の子が生まれた。<sup>27</sup>メトシエラは九百六十九歳まで生き、そして死んだ。

<sup>28</sup>レメクが百八十二歳になった時、一人の男の子が生まれ、<sup>29</sup>その子をノアと名付けて、こう言った。「主が呪われたこの地で働くことは苦

労であるに違いないが、この子が慰めてくれるだろう。」<sup>30</sup>レメクにノアが生まれてから、レメクは五百九十五年生きて、彼には、さらに男の子や女の子が生まれた。<sup>31</sup>レメクは七百七十七歳まで生き、そして死んだ。

<sup>32</sup>ノアが五百歳になった時、セム、ハム、ヤベテが生まれた。

## ノアの洪水

**6**<sup>1</sup>さて、人が地上が増えていき、娘たちも沢山生まれた時、<sup>2</sup>信者までもが、未信者の女性の外面的な美しさに心がひかれ、その女性たちと結婚するようになった。<sup>3</sup>そこで、主はこう仰せられた。「わたしはそういつまでもこのままにはおかない。後百二十年待とう。」<sup>4</sup>信者が未信者と結婚し、子供が出来たころ、またその後々にも巨人がいた。彼らのことについては、後までも知られている。

<sup>5</sup>主は、人の悪が地上に増大し、その心の中で考えることがいつも悪いことばかりであることをご覧になった。<sup>6</sup>それで主は、地上の人間のことを悲しみ、心を痛め、<sup>7</sup>こう仰せられた。「わたしが創造した人を地上から滅ぼしてしまおう。人ばかりでなく、家畜や爬虫類や空の鳥も皆絶やしてしまおう。わたしはこれらのものに失望した。」<sup>8</sup>しかし、ノアだけは違っていた。彼は主の御心にかなっていた。

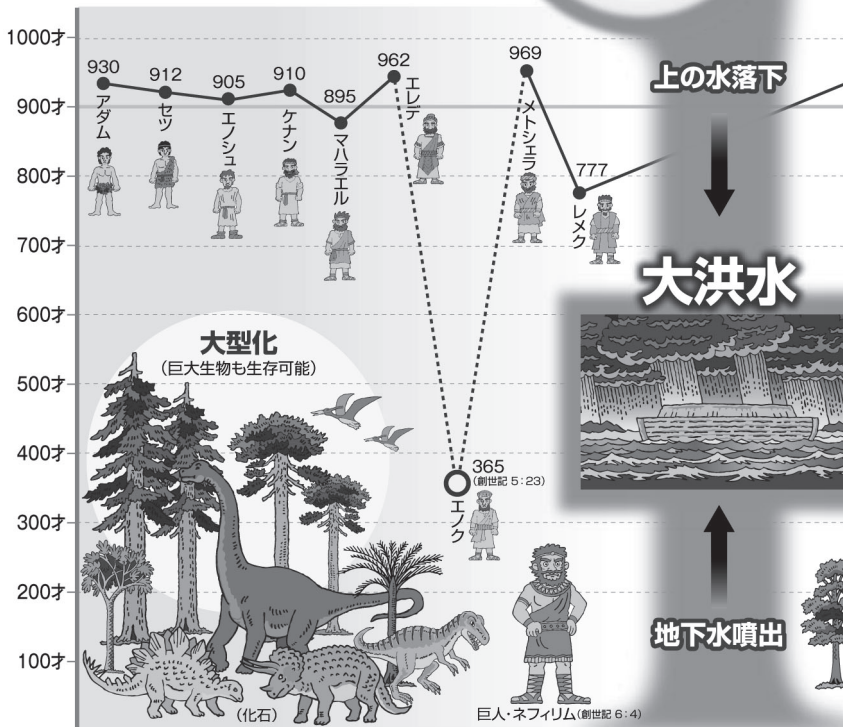
<sup>9</sup>ノアのことについて記すと、次の通りである。ノアはその時代の人々の中であって、彼らの悪に染まらず、創造主にのみ心を向けて生きていた。ノアはいつも創造主と共に生活していた。<sup>10</sup>ノアには三人の子供セム、ハム、ヤベテがいた。<sup>11</sup>世の中は墮落しきっており、犯罪が増えていた。<sup>12</sup>創造主の目の前に、それは目茶苦茶であった。すべての人が自分勝手な生活をしてきたからである。<sup>13</sup>その時、創造主はノアに仰せられた。「わたしは人類を滅ぼそうと心に決めた。彼らは悪に悪を重ねたから、わたしは彼らをこの地上からすべて滅ぼしてしまおう。<sup>14</sup>しかし、あなたは救ってあげよう。そこで、やにの多い木で箱船を造り、箱船の中に部

# ノアの大洪水による環

(創世記5章 ▶ 創世記6章)

## ■ 創造された地球の環境

当時の地球には「上の水」があり、  
温室のようにバリアとなって、  
太陽光から地球を守っていた。  
その「上の水」が大洪水の時に落ちた!



# 環境の激変と年齢激減

6章～8章 ▶ 申命記34章)

## ■ 大洪水の検証 (マタイ 24章 33～42節)

① 気象の大激変

② 環境の大激変…全地は1年以上水浸し!!  
太陽から有害光線が来る

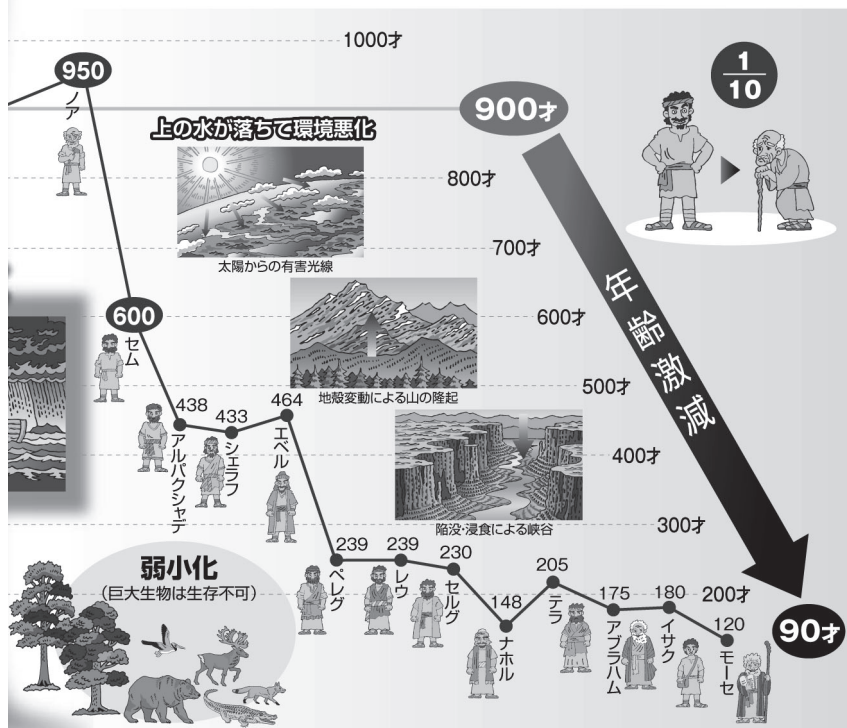
③ 地殻の大変動…山が上がり、谷が沈んだ

★環境の悪化

巨大生物は生存できない

★人間の年令

900才代 → 現在90才代  
(最高120才)



屋を作り、木のやんで、船の内外をすべて塗って防水を施さない。<sup>15</sup> 船は長さ百五十メートル、幅二十五メートル、高さ十五メートルにし、<sup>16</sup> 屋根から五十センチ下がった所に天窓を作り、戸口を一階と二階と三階に付けなさい。<sup>17</sup> わたしは、この地上に洪水を起し、生きているものを皆滅ぼしてしまふ。<sup>18</sup> しかし、わたしは約束しよう。あなたと家族の者たちだけは助けてあげよう。だから、子供たちと、妻と、子供たちの妻と一緒に、箱船に乗り込みなさい。<sup>19</sup> また、箱船には、すべての生き物の中からそれぞれ一つがいずつを入れなさい。<sup>20</sup> それは、あらゆる種類の鳥、動物、爬虫類の中から選ばなければならない。<sup>21</sup> また、自分たちと動物の食糧も箱船の中に入れておきなさい。」<sup>22</sup> ノアは創造主の仰せられた通りにした。

**7** <sup>1</sup> 主はノアにこう仰せられた。「家族の者と一緒に、箱船に入りなさい。あなたはこの世の人々の悪に染まらず、正しい生き方をしているのを、わたしは見ている。<sup>2</sup> 食用といけにえ用のために、清い動物の中から七頭ずつ、また清くない動物は一つがいずつ、<sup>3</sup> 鳥は七羽ずつ入れなさい。これは、洪水後、あらゆる種類の生き物が、全地に生き残るためである。<sup>4</sup> 後七日たつと、わたしは雨を降らせ、しかも、長い間雨を降り続けさせよう。こうして、生きているものを、ことごとく地上から滅ぼしてしまふ。」<sup>5</sup> ノアはすべてのことを、主が仰せられた通りにした。

<sup>6</sup> 洪水が襲って来た時、ノアは六百歳であった。<sup>7</sup> ノアは子供たちと妻と、子供たちの妻と一緒に、洪水を避けて、すでに箱船に入っていたし、<sup>8</sup> また清い動物、清くない動物、鳥、爬虫類もすべて、<sup>9</sup> 一つがいずつノアと一緒に箱船に入った。<sup>10</sup> こうして、それから七日後に洪水が地上に起った。

<sup>11</sup> ノアが六百歳の二月十七日のことであった。その日、地下水は閘を切ったようにあふれ出し、<sup>12</sup> どしゃ降りの雨が長い間降り続いた。<sup>13</sup> ノアと、三人の子供セム、ハム、ヤベテと彼の妻たちが箱船に入ったのは、その同じ日の

ことであった。<sup>14</sup> また、あらゆる種類の動物、家畜、爬虫類、鳥も、皆入った。<sup>15</sup> つまり、あらゆる種類の生き物は皆一つがいずつ箱船に入った。<sup>16</sup> 箱船に入ったものは、すべての生き物の雄と雌の一つがいであって、創造主が仰せられた通りに入った。すべてのものが箱船の中に入ると、主はしっかり戸を閉められた。

<sup>17</sup> 洪水は四十日間、地上に荒れ狂った。水が地上に一杯になり、箱船はその水の上にはぼかりと浮び上がった。<sup>18</sup> そして、箱船はその洪水の水の動くままに、あちこちと漂っていた。<sup>19</sup> 水かさはますます増して、高い山さえも皆すっぽりと水の中に埋まった。<sup>20</sup> 水はそれより七メートル以上も覆ってしまい、全山は水の中に隠れてしまった。<sup>21</sup> 地上に生息していたものは、鳥も家畜も動物も、爬虫類も、人も皆滅んでしまった。<sup>22</sup> 生きているものは、ことごとく死んでしまった。<sup>23</sup> 地上にいたすべての生き物は、人を始め、家畜も、爬虫類も、空の鳥も皆、地上から滅ぼされ、ただノアと一緒に箱船の中に逃れたものだけが生き残った。<sup>24</sup> 水は百五十日もの間、地上にあった。

**8** <sup>1</sup> 創造主は、ノアと、箱船の中にいたあらゆる動物や家畜を顧みられ、風を地上に吹かせられると、水は引き始めた。<sup>2</sup> 地下水があふれ出ることはやみ、雨も降らなくなった。<sup>3</sup> それで、水は次第に地上から引いていき、百五十日たつと水かさは減り、<sup>4</sup> 箱船は、七月十七日にアララテの山に着いて、動かなくなった。<sup>5</sup> 水かさは十月まで減り続け、十月一日には、山々の頂上が見え始めた。

<sup>6</sup> 四十日たってから、ノアが箱船の窓をあけて、<sup>7</sup> 鳥を放ったところ、鳥は水面が乾いてしまふまで、行ったり来たりしていた。<sup>8</sup> ノアはまた地面から水が引いたかどうかを見ようとして、鳩を放ったところ、<sup>9</sup> 鳩は止る所が無かったので、箱船のノアの所に帰って来た。水がまだ全地を覆っていたからである。ノアはその鳩を箱船の中に入れてやった。<sup>10</sup> それから七日たってから、もう一度、鳩を箱船から放つと、<sup>11</sup> 鳩は夕方になって戻って来た。見ると、その



くちばしには、オリーブの若葉があった。それで、ノアは地から水が引いたことを知った。<sup>12</sup>それから七日たってから、もう一度鳩を放ったところ、もう鳩は戻って来なかった。

<sup>13</sup> ノアの六百一歳の一月一日になると、地上の水は乾き始めた。ノアが箱船の覆いを大胆にめくり捨ててみると、地上の水はもう引いていた。<sup>14</sup> 二月二十七日になると、地上は全く乾いた。<sup>15</sup> すると、創造主はノアにこう仰せられた。<sup>16</sup> 「妻と、子供たちと、その妻たちを連れて、箱船を出なさい。<sup>17</sup> 一緒に箱船に乗っているすべての生き物、つまり鳥や家畜や爬虫類をすべて連れ出し、地上に増え広がるようにしなさい。」<sup>18</sup> そこで、ノアは自分の妻と、息子たちと、その妻たちを連れて、外に出た。<sup>19</sup> また、あらゆる動物、爬虫類、鳥、生き物はすべて、その種類に従って箱船を出た。

<sup>20</sup> ノアは、主のために祭壇をこしらえ、あらゆる清い家畜と、清い鳥のうちからささげ物を選び、完全に焼き尽くすいけにえとして祭壇の上にささげた。<sup>21</sup> 主はそのささげ物を喜ばれ、このように心のうちに誓われた。「わたしはもう二度とこのようなことをすまい。人の心の思いは、幼い時から罪深いものである。だから、わたしは世の終りが来るまでは、このように大地を呪い、すべての生き物を滅ぼすことはしない。<sup>22</sup> 大地のある限り、種蒔の時も、刈り入れの時も、暑さ寒さも、夏冬も、昼も夜も繰り返し、続いていこう。」

## 祝福と約束

**9** <sup>1</sup> 創造主は、ノアとその子供たちを祝福して、彼らにこう仰せられた。「生め。増えていけ。全地に広がれ。<sup>2</sup> 地上のあらゆる動物、空の鳥、地上の爬虫類、海中の魚は皆、あなたがたを恐れ、あなたがたの支配に服し、<sup>3</sup> あらゆる生き物は、あなたがたの食物となる。以前植物を食物として与えたように、今度は動物を皆、食物として与える。<sup>4</sup> しかし肉を食べる時、野獣のように血の付いたまま食べてはならない。血は命を表すからである。<sup>5</sup> 殺人をす

る者に対しては、必ずその償いを要求する。わたしは獣でも、人でも、償いとして命を要求する。

<sup>6</sup> 人の血を流す殺人者には、死刑が要求される。

創造主に似せて、人は造られたのだから。

<sup>7</sup> 生め。増えていけ。全地に広がり、一杯になれ。」

<sup>8</sup> 創造主は、ノアとその子供たちにこう仰せられた。<sup>9</sup> 「わたしは、あなたがた、および子孫に約束しよう。<sup>10</sup> 一緒に箱船に入ったあらゆる生き物、鳥、家畜、獣についても約束しよう。<sup>11</sup> もう二度と洪水によって滅ぼすことはしないと、わたしは約束しよう。」<sup>12</sup> さらに、創造主はこうも仰せられた。「わたしはあなたがたに約束することの印を示そう。<sup>13</sup> それは、雲の中に出来る虹である。<sup>14</sup> 雲の中に虹が出来る時、<sup>15</sup> わたしはあなたがたにした約束を思い出して、洪水によってあらゆる生き物を滅ぼすことはしない。<sup>16</sup> 虹が雲の中に出来たら、わたしはすべての生き物に約束した永遠の約束を思い出そう。」<sup>17</sup> こうして、創造主はノアに仰せられた。「この虹が、地上のあらゆる生き物に対して約束した、わたしの約束の印である。」

## ノアと子供たち

<sup>18</sup> 箱船から出て来たノアの子供たちは、セムとハムとヤペテであった。このハムがカナン人の先祖である。<sup>19</sup> この三人がノアの子供たちで、全世界の人々はこの三人から出て、全世界に広がっていった。

<sup>20</sup> さて、ノアは農夫となり、ぶどう畑を作った。<sup>21</sup> ノアはぶどう酒を飲んで酔ってしまい、天幕の中で素っ裸のままになっていた。<sup>22</sup> カナン人の先祖であるハムは、父親が素っ裸になっているのを見て、天幕の外にいる二人の兄に父親の失態を話した。<sup>23</sup> それを聞いたセムとヤペテは、父親の弱さに同情し、父親の醜態を見ないように後向きの姿勢で、服を持って、父親の裸を覆った。<sup>24</sup> やがてノアは酔いから覚めて、末の子ハムが自分の失態を嘲笑したことを知って、<sup>25</sup> こう言った。

「カナン（ハム）は呪われよ。  
兄弟たちのしもべとなって仕えよ。」

<sup>26</sup> また、こうも言った。

「セムの創造主である主は、ほめたたえられるべきお方。

カナンはセムのしもべとなれ。

<sup>27</sup> 創造主はヤベテを偉大な者とし、  
セムと同じ祝福を与えてください。

しかし、カナンはセムのしもべとなれ。」

<sup>28</sup> ノアは洪水があってから、さらに三百五十年も生きた。<sup>29</sup> ノアは九百五十歳まで生き、そして死んだ。

## ノアの子供セム、ハム、ヤベテの子孫

**10** <sup>1</sup> ノアの子供セム、ハム、ヤベテの子孫については、次の通りである。  
洪水の後、彼らに子供たちが生れた。

<sup>2</sup> ヤベテの子孫はゴメル、マゴグ、マダイ、ヤワン、トバル、メシェク、ティラスである。<sup>3</sup> ゴメルの子孫はアシュケナズ、リファテ、トガルマである。<sup>4</sup> ヤワンの子孫はエリシャ、タルシシュ、キティム、ドダニムである。<sup>5</sup> これらの人々から海沿いの国々の民が分れて、それぞれその土地におり、その言語により、また氏族によって住んだ。

<sup>6</sup> ハムの子孫はエチオピア、エジプト、リビヤ、カナンである。<sup>7</sup> エチオピアの子孫はセバ、ハピラ、サブタ、ラマ、サブテカであり、ラマの子孫はシェバとデダンである。<sup>8</sup> エチオピアの子はニムロデであり、このニムロデは王となった最初の人である。<sup>9</sup> 彼は創造主に祝福された偉大な獵師である。このことから、「創造主に祝福された偉大な獵師ニムロデのようだ」という賛辞が使われるようになった。<sup>10</sup> 彼の王国は、初めはバベル、エルク、アカデ、カルネであって、シヌアルの地にあった。<sup>11</sup> 彼はそこからアッシリヤに行き、ニネベ、レホボテ・イル、ケラフ、<sup>12</sup> およびニネベとケラフの間にある大きな町レセンを建てた。

<sup>13</sup> エジプトからはルデ人、アナミム人、レハビム人、ナフトヒム人、<sup>14</sup> パテロス人、カスル

ヒム人、カフトル人が出、カフトル人からはバシリシテ人が出た。

<sup>15</sup> カナンからは長男のシドンとヘテが出た。

<sup>16</sup> そのほか、エプス人、エモリ人、ギルガシ人、<sup>17</sup> ヒビ人、アルキ人、シニ人、<sup>18</sup> アルワデ人、ツェマリ人、ハマテ人が出た。その後、カナン人の諸氏族が分れていった。<sup>19</sup> カナン人の境は、シドンからゲラルを経てガザに至り、ソドム、ゴモラ、アデマ、ツェボイムを経て、レシヤに及んだ。<sup>20</sup> これらは皆ハムの子孫であって、その氏族と言語に従って、その土地と国々にいた。

<sup>21</sup> セムにも子供が生れた。セムはエベルのすべての子孫の先祖であって、ヤベテの兄であった。<sup>22</sup> セムの子孫はエラム、アシュル、アルパクシャデ、ルデ、アラムである。<sup>23</sup> アラムの子孫はウツ、フル、ゲテル、マシユであった。<sup>24</sup> アルパクシャデの子供はシェラフ、シェラフの子供はエベルである。<sup>25</sup> エベルには二人の子供が生れた。一人の名前はペレグと言った。それは、彼の時代に、地の民が分れたため、そう名付けられたのである。弟の名前はヨクタンと言った。<sup>26</sup> ヨクタンにアルモダデ、シェレフ、ハツアルマベテ、エラフ、<sup>27</sup> ハドラム、ウザル、ディクラ、<sup>28</sup> オバル、アビマエル、シェバ、<sup>29</sup> オフィル、ハピラ、ヨバブが生れた。これらは皆、ヨクタンの子供であった。<sup>30</sup> 彼らが住んだ所は、メシャからセファルに及ぶ東の高原地帯であった。<sup>31</sup> これらは皆、セムの子孫であって、その氏族とその言語に従って、その土地と国々にいた。

<sup>32</sup> これらは、ノアの子供たちの氏族であって、血統に従ってそれぞれの国に住んでいたが、洪水の後、これらの人々から地上の諸民族が分れていったのである。

## バベルの塔

**11** <sup>1</sup> 人類は一つの言語だけを使っていた。<sup>2</sup> そのころ、人々は東の方から移動して来て、シヌアルの地に見付けた平野に移り住んだ。<sup>3</sup> そして、彼らは互いにこんなことを言っていた。「さあ、われわれが造り出したこのれんがを、沢山造ろう。」こうして、彼